

平成18年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

平成18年度 長期研修者一覧

番号	教科 領域等	氏 名 (勤 務 校)	研 究 主 題
1	図画工作	前 田 一 哉 (鹿児島市立 吉野東小学校)	子どもが自分の思いをもち、表現する喜びを実感できる絵画指導の工夫 ー第5学年「表したいことを絵に表す」学習における発想・構想段階から線描に表す段階までの指導を中心にー
2	キャリア 教 育	草 原 由 果 (鹿児島市立 桜丘東小学校)	子どもの実践意欲を高める小学校キャリア教育 ー夢と現実をつなぐ活動を取り入れた学級活動と道徳の時間を通してー
3	特別支援 教 育	加 藤 研一郎 (鹿児島市立 前之浜小学校)	特別な教育的支援を必要とする児童への学習指導の在り方 ー「読むこと・書くこと」に困難さのある児童への指導を通してー
4	国 語	上 鶴 涼 子 (指宿市立 柳田小学校)	叙述を基に読みを深める国語科学習指導の在り方 ー読みの交流を中心とした文学的文章教材の指導の工夫を通してー
5	情報教育 (へき地・複式)	戸 川 洋二郎 (薩摩川内市立 鳥丸小学校)	自ら情報を獲得し、思考し、表現する力を身に付ける児童の育成 ー複式学級の社会科における効果的なデジタル教材の活用を通してー
6	算 数	川 崎 弘 樹 (湧水町立 吉松小学校)	「数学的な考え方」を身に付け、「考える楽しさ」を味わえる算数科学習指導の在り方 ー問題解決的な学習過程における学習指導の工夫改善を通してー
7	生徒指導	平 川 克 寛 (垂水市立 協和小学校)	児童自ら好ましい人間関係をはぐくむ生徒指導の研究 ーピア・サポート・プログラムの活用を通してー
8	教育相談	園 田 暁 子 (鹿屋市立 鶴羽小学校)	心豊かな人間性をはぐくむ教育相談活動の進め方 ー学級集団や児童一人一人への適切な援助・指導を通してー
9	教科マネジメント (英語)	南 郷 美 幸 (鹿児島市立 清水中学校)	生徒一人一人の表現力を高める指導の在り方 ー英語科の協働体制による工夫改善を通してー
10	技術・家庭	山 内 啓 二 (鹿児島市立 南中学校)	工夫し創造する能力を育てる技術・家庭科の指導 ーエネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作におけるロボットコンテストの実践を通してー

番号	教科 領域等	氏 名 (勤 務 校)	研 究 主 題
11	数 学	関 口 達 (鹿児島市立 星峯中学校)	生徒が意欲的に取り組むための数学科学習指導法の研究 －「数と式」領域における小・中・高の接続を踏まえた ワークシートの活用を中心として－
12	音 楽	小齊平 一 信 (志布志市立 田之浦中学校)	伝統音楽における表現活動を通して音楽に対する感性を豊かにする ための指導の在り方 －郷土の音楽の教材化を通して－
13	健康教育	米 永 瞳 (鹿児島市立 吉野東中学校)	健康的な生活を実践する力を高める健康教育の推進 －ライフスキル教育を取り入れた健康教育プログラムの創造－
14	情 報	宮 迫 忠 義 (鹿児島県立 甲陵高等学校)	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てるための指導 の在り方 －普通教科「情報Ａ」における教材や指導法の研究を通して－
15	国 語	濱 田 秀 行 (鹿児島県立 加世田高等学校)	文章を理解・評価しながら読む力を高める学習指導の在り方
16	特別支援 教 育	上 村 さとみ (鹿児島県立 南薩養護学校)	自閉症のコミュニケーション支援の在り方 －知的発達遅れの伴うＡ児の事例研究を通して－

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	図画工作	前田一哉	鹿児島市立吉野東小学校	子どもが自分の思いをもち、表現する喜びを実感できる絵画指導の工夫 ー第5学年「表したいことを絵に表す」学習における発想・構想段階から線描に表す段階までの指導を中心にー	本研究は、発想・構想段階から線描に表すまでの段階で、子どもの絵に表したいという思いを引き出し、イメージを膨らませる学習指導の工夫や個に応じた指導を行うことで、子どもが自分の思いを絵に表現できる喜びを実感できることを目指したものである。 具体的には、ワークシートの作成と活用、五感に訴える導入の工夫、個に応じた助言の三つを指導の手だてとして考え、実践した。 そして、その有効性については、実証授業を通し、子どもの意識の変容や作品、教師自身の指導の反省から検証を行った。
2	キャリア教育	草原由果	鹿児島市立桜丘東小学校	子どもの実践意欲を高める小学校キャリア教育 ー夢と現実をつなぐ活動を取り入れた学級活動と道徳の時間を通してー	本研究は、小学校の教育活動をキャリア教育の視点で見直し、やるべきことに自発的に取り組む子どもの育成の在り方について追究したものである。 具体的な手だてとして、学級活動に夢と現実をつなぐ活動を取り入れ、目標に対する実践力を育成するために道徳の時間を関連付けた。また、これらの活動を進めるに当たって、保護者と連携を図りながら、個に応じた指導を行った。 このような手だてを講じることによって、子どもは、夢の実現を目指し努力する過程において自分の役割を改めて認識し、やるべきことに意欲的に取り組むことができることを実証した。
3	特別支援	加藤研一郎	鹿児島市立前之浜小学校	特別な教育的支援を必要とする児童への学習指導の在り方 ー「読むこと・書くこと」に困難さのある児童への指導を通してー	本研究は、通常の学級において特別な教育的支援を必要としている児童への学習指導の在り方について、様々な学習の基礎であると考えられる「読むこと・書くこと」の困難さに着目し、事例的に研究したものである。 支援の中心となる児童の抽出、認知特性にまで踏み込んだ実態把握の方法・分析の在り方、個別の指導計画の作成の在り方と授業への生かし方など、実際に支援を展開するまでの一連の過程について研究し、実態に応じた支援の実践の一事例としてまとめることができた。また、中心となる児童への支援が学級全体に与える波及効果についても考察し、今後の特別支援教育の方向性を探ることができた。
4	国語	上鶴涼子	指宿市立柳田小学校	叙述を基に読みを深める国語科学習指導の在り方 ー読みの交流を中心とした文学的文章教材の指導の工夫を通してー	本研究は、文学的文章教材の学習で叙述を基に読みを深める子どもの育成を目指し、読みの交流において自分の見方、考え方を広げる指導の工夫について追求したものである。 具体的には、自分の読みをもつためのひとり読みでの「学習の手引」や読みの交流での「交流の進め方」などを作成し、叙述を基にして読みを深めることの意義や方法をとらえさせるとともに、交流の形態や発問などの教師の指導を明確にし、言葉に着目しながら「応じる力」を駆使して交流することについて検証を行った。

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
5	情報教育（へき地・複式）	戸川洋二郎	薩摩川内市立鳥丸小学校	自ら情報を獲得し、思考し、表現する力を身に付ける児童の育成 ー複式学級の社会科学における効果的なデジタル教材の活用を通してー	本研究は、デジタル教材を複式学級の社会科学習に効果的に位置付けることで、児童の社会的事象についての見方や考え方を高めることのできる授業の在り方を追究したものである。 具体的には、複式学級の特徴や学校の実態などを踏まえたデジタル教材の活用を指導計画に位置付け、児童に様々な情報媒体を組み合わせ活用させる指導法を研究した。 その結果、主体的に獲得した情報を思考や表現に生かし課題解決を図ろうとする児童の育成の在り方について検証を行うことができた。
6	算数	川崎弘樹	湧水町立吉松小学校	「数学的な考え方」を身に付け、「考える楽しさ」を味わえる算数科学習指導の在り方 ー問題解決的な学習過程における学習指導の工夫改善を通してー	本研究は、算数科において「数学的な考え方」を身に付け、「考える楽しさ」を味わわせるため、算数的活動を積極的に取り入れ、かつ家庭学習との関連をもたせた授業の在り方と有効性について研究したものである。 まず、「数学的な考え方」を子どもの具体的な姿でとらえた水準表を作成し、それを基に、①算数的活動の設定、②家庭学習の内容、③数学的な考え方の評価などの工夫を行った。次に、その三つを位置付けた指導計画等の作成や教材・教具の工夫をし、実証授業を実践し検証した。 その結果、子どもの考える意欲の向上が見られ、「数学的な考え方」を身に付け、「考える楽しさ」を味わわせることができた。
7	生徒指導	平川克寛	垂水市立協和小学校	児童自ら好ましい人間関係をはぐくむ生徒指導の研究 ーピア・サポート・プログラムの活用を通してー	本研究のねらいは、学校及び児童の実態や発達段階に応じて作成したピア・サポート・プログラムの活用を通して、児童が社会的スキルを獲得しながら自己有用感を高めるとともに、自分や他者のよさの理解を深め、自ら好ましい人間関係をはぐくむことである。 具体的には、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを活用した体験的なトレーニングと就学予定児のお世話活動等の人とのふれあいを深める交流活動をプログラム化し、実践を進めた。その結果、実態や発達段階に応じて作成したピア・サポート・プログラムの活用が、好ましい人間関係をはぐくむことに有効であることが明らかになった。
8	教育相談	園田暁子	鹿屋市立鶴羽小学校	心豊かな人間性をはぐくむ教育相談活動の進め方 ー学級集団や児童一人一人への適切な援助・指導を通してー	本研究のねらいは、すべての児童が課題や悩みを抱えているという認識の下、学級集団や児童一人一人への適切な援助・指導を通じた教育相談活動を進めることで児童の心豊かな人間性をはぐくむことを目指した研究である。 具体的には、学級の実態を「Q-U」等を用いてとらえ、教師の支援の在り方を検討した。さらに、教師が学校カウンセリングの基本姿勢と技法を身に付け、児童、教師、保護者相互の連携を図り、自己理解や他者理解を深めさせる教育活動を行うことは、児童の自己肯定感、自己有用感を高めることに有効であることを明らかにした。

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
9	教科マネジメント（英語）	南郷美幸	鹿児島市立清水中学校	生徒一人一人の表現力を高める指導の在り方 ー英語科の協働体制による工夫改善を通してー	本研究は、英語科の協働体制による工夫改善を通して、生徒一人一人の表現力を高める指導の在り方を研究したものである。 学校組織マネジメントの考え方に立ち、本校英語科全職員で、PDCAサイクルを用いて生徒の実態に基づき、目標や実行策を作成し、評価・改善を行い、生徒の表現力の育成を目指し、授業や家庭学習の効果的な在り方など、協働で取り組み研究を進めてきた。 これらの有効性を検証するために、一年間の取組を通して、生徒の変容を確認し、また英語科としての組織力を高めることができた。
10	技術・家庭	山内啓二	鹿児島市立南中学校	工夫し創造する能力を育てる技術・家庭科の指導 ーエネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作におけるロボットコンテストの実践を通してー	本研究は、ロボットコンテストの実践を通して生徒の工夫し創造する能力を育てる技術・家庭科の指導の在り方について追究したものである。 具体的には、ロボットコンテストの学習を取り入れた「発展的な内容」の学習の指導計画を作成し、基礎的・基本的な内容の確実な定着と思考を深めさせる指導の工夫を、実証授業を通して検証した。その結果、生徒は、「発展的な内容」の学習において、ロボットの設計・製作を通して試行錯誤しながら、工夫し創造する喜びを味わい、更に工夫したいという意欲とともに、工夫し創造する能力を高めていくことが明らかになった。
11	数学	関口達	鹿児島市立星峯中学校	生徒が意欲的に取り組むための数学科学習指導法の研究 ー「数と式」領域における小・中・高の接続を踏まえたワークシートの活用を中心としてー	本研究は、数学科において生徒が意欲的に取り組むための指導の在り方について、習熟の程度に応じたワークシートの作成及び工夫改善を図り、それを生かした授業の構成について研究したものである。 まず、指導内容の系統性を踏まえたワークシートを作成するに当たり、他校種の教師と共同で学習指導案を検討し、校種間の接続を図る学習指導法について研究した。次に、学習内容の定着を図る視点から、小テスト、復習シートを作成し、実証授業を実践した。 その結果、生徒は授業の学習内容が分かり、問題を解くことができるようになることを通して、課題に意欲的に取り組むことができた。
12	音楽	小齊平一信	志布志市立田之浦中学校	伝統音楽における表現活動を通して音楽に対する感性を豊かにするための指導の在り方 ー郷土の音楽の教材化を通してー	本研究は、伝統音楽における表現活動を通して音楽に対する感性を豊かにするための指導の在り方について研究したものである。 伝統音楽に対する生徒の意識・実態を調査し、指導上の課題を明らかにした上で、郷土の音楽の教材化を通して生徒に創造的な表現活動をさせるための手だてや、生徒が自分の思いや考えを音楽や言葉で表現することができるようになるための指導の在り方を明らかにした。そのことにより、音楽に対する生徒の感性を豊かにすることを明らかにすることができた。

番号	教科領域等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
13	健康教育	米永瞳	鹿児島市立吉野東中学校	健康的な生活を実践する力を高める健康教育の推進 ーライフスキル教育を取り入れた健康教育プログラムの創造ー	本研究は、健康的な生活を実践する力を高めるために、ライフスキル教育の視点や手法を取り入れた健康教育について追求したものである。 まず、ライフスキル教育と健康教育との関係について明確にし、ライフスキル教育プログラムの内容と保健体育、学級活動との関連を図った健康教育プログラムを作成した。次に、実証授業を通して、ライフスキル教育の視点や手法を取り入れた保健学習等の有効性について検証した。 その結果、自分のよさや他の人のよさを認め合う姿などが見られ、これらの学習活動が、生徒一人一人のライフスキルを高めるのに有効であることが明らかになった。
14	情報	宮迫忠義	県立甲陵高等学校	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てるための指導の在り方 ー普通教科「情報A」における教材や指導法の研究を通してー	本研究は、普通教科「情報」における「情報A」の指導の在り方について研究を進めたものである。 実態調査を基にして指導内容の分析・検討を行い指導計画を作成した。さらに、教材や指導法の工夫を通して、指導の在り方を示した。「情報活用の実践力」を一層高めるためには、「情報の科学的な理解」を深め、「情報社会に参画する態度」の育成を図りながらバランスよく指導する必要がある。このことを、指導計画に基づき、教材や指導法を工夫した実践を通して実証し、「情報A」が目標とする能力や態度を育成することができた。
15	国語	濱田秀行	県立加世田高等学校	文章を理解・評価しながら読む力を高める学習指導の在り方	本研究は、「国語総合」において、文章を理解・評価しながら読む生徒の力を高めるために、クリティカル・リーディングの導入の在り方について追求したものである。 まず、「読解力向上に関する指導資料」を参考に、生徒に求められている力が、これからの生涯学習社会への見通しを基に決定されていることを確認した。その上で、現在の「読解力」指導の問題点を検討し、ツールミンモデルを生徒に紹介することや、学習活動としてリライト活動を行わせることなどの工夫が有効であると考えた。二つの単元の授業とその分析・考察により、これらの工夫が、生徒の文章を理解・評価しながら読む力を高めるのに有効であることを実証した。
16	特別支援教育	上村さとみ	県立南薩養護学校	自閉症のコミュニケーション支援の在り方 ー知的発達遅れの伴うA児の事例研究を通してー	本研究は、自閉症の認知特性に応じたコミュニケーション支援の在り方を探ったものである。 具体的には、自閉症の認知特性について理解を深めるとともに、認知特性に応じた教材・教具の活用や教師の働き掛けについて検討し、事例研究を通して検証した。実証授業において、評価・見直し・改善を図ることで、認知特性に応じた支援について意識を高めることができ、指導場面に生かすことができた。また、サポートブックを活用することで、関係者との連携の在り方を探ることができた。